

平成 21 年 7 月 24 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18209062

研究課題名（和文） 看護実践能力の発達過程と評価方法に関する研究

研究課題名（英文） A study of evaluation scale and developmental process of competence in nursing practice.

研究代表者

中山 洋子（NAKAYAMA YOKO）

公立大学法人福島県立医科大学・看護学部・教授

60180444

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護実践能力、看護系大学卒の看護師、看護実践能力の発達過程、看護実践能力の測定用具、看護実践能力の評価方法

1. 研究計画の概要

本研究は、看護実践能力を評価する方法、とくに看護実践能力を測定する用具（質問紙）を開発し、病院で働く看護系大学卒の看護師の看護実践能力を経時的に調査することを通して、その発達過程を明らかにすることにある。具体的な課題としては、以下の通りである。

(1) 「看護実践能力」についての概念化を図り、その構成要素を明らかにする。

(2) 看護実践能力を測定する用具（質問紙）を開発する。

(3) 看護系大学を卒業した看護師を対象に、臨床1年目、臨床2年目、臨床3年目、臨床4年目、臨床5年目の看護実践能力を開発した質問紙を用いて測定する。

(4) 臨床1年目の対象者のうち、研究協力の同意が得られた対象者に対しては、その後3年間を量的な方法と質的な方法によって追跡調査し、看護実践能力をどのように修得しているかについて分析する。

2. 研究の進捗状況

(1) 文献検討を経て看護実践能力の概念化を図った。すなわち、看護実践能力を定義するとともに、看護実践能力を3つの下位概念に分け、18のコンピテンスの項目と58の構成要素を抽出した。

(2) 看護実践能力の測定用具の開発のために、83項目からなる質問紙（案）を作成し、34名の看護師に依頼して内容妥当性の検討を行った。その結果、一致率等が低かった項目を削除し、66項目の質問紙（案）とした。

(3) 66項目からなる質問紙について既知グループ法に基づく構成概念妥当性の検討を行った。8つの総合病院に協力を依頼し、臨床経験2年以下の看護師98名と5年以上の看護師191名から回答を得た。分析の結果、グループ間に有意な差が見られ、信頼性も確保された。不明瞭であった2項目を削除して、64項目からなる質問紙「看護実践能力自己評価尺度 Clinical Nursing Competence Self-assessment Scale : CNCSS」とした。

(4) 開発した質問紙（CNCSS）を用いて、看護系大学卒の臨床1年目～臨床5年目までの看護師を対象とした本調査を実施した。対象者は、54施設、4930名で、回答者数は1624名、回収率は約33%であった。現在、本調査の結果の分析中である。

(5) 質問紙（CNCSS）とすでに日本語に翻訳され、信頼性、妥当性が検討されているSix-Dの質問紙を用いて、併存妥当性を検討するための調査を行った。対象は7施設で、内科・外科に勤務する臨床経験6年以上の看護師とし、270名から回答を得た。併存妥当性の検討の過程で、欧米で開発された2つの看護実践能力を測定する質問紙の翻訳を行った。

(6) 質的な方法による臨床1年目の看護系大学卒の看護師の実践能力についての調査を20名に実施した。インタビューデータをまとめ、分析中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

(理由)

看護実践能力の概念化に時間がかかり、な

おかつ、EUの看護師を対象とした看護実践能力を測定する質問紙が開発され、発表されたこともあって、測定用具（質問紙）の開発が計画より6ヶ月遅れてしまった。その後の調査は順調に進んでいる。

日本看護協会出版会，2008，33-36.

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 本調査をまとめ、研究協力病院に結果の報告をする。
- (2) 開発した尺度（質問紙）の信頼性、妥当性の検討を重ね、尺度（質問紙）を洗練する。
- (3) 研究成果を **The 1st International Research Conference of World Academy of Nursing Science** (2009年9月, Kobe, Japan) 及び第29回日本看護科学学会学術集会(2009年11月, 千葉市)にて発表する。
- (4) 量的な方法と質的な方法を用いて、縦断的研究を継続する。
- (5) 本研究をまとめ、報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 2件)

- (1) 丸山育子，看護実践能力を測定する尺度（質問紙）の開発：(その1)：看護実践能力の概念化，第38回日本看護科学学会学術集会、2008年12月14日，福岡市。
- (2) 工藤真由美，看護実践能力を測定する尺度（質問紙）の開発：(その2)自己評価尺度の内容妥当性の検討，第38回日本看護科学学会学術集会、2008年12月14日，福岡市。

[図書] (計 3件)

- (1) 戸田肇，看護系大学における学生の看護実践能力育成のための先駆的な取り組み：大学と臨床（病院）との共同による学習指導の検討，日本看護系大学協議会広報・出版委員会編，看護学教育Ⅲ：看護実践能力の育成，日本看護協会出版会，2008，12-21。
- (2) 永山くに子・山口千鶴子，看護系大学における学生の看護実践能力育成のための先駆的な取り組み：大学と臨床との共同による実習指導の検討，日本看護系大学協議会広報・出版委員会編，看護学教育Ⅲ：看護実践能力の育成，日本看護協会出版会，2008，22-27。
- (3) 土居洋子・大平光子，看護系大学における学生の看護実践能力育成のための先駆的な取り組み：卒業直前の看護技術の自主トレーニング，日本看護系大学協議会広報・出版委員会編看護学教育Ⅲ：看護実践能力の育成，